



南部町立南部中学校 学校だより 第11号

千一ム南部中

令和2年9月9日(水)
校長 望月和彦

輝城祭まで残り3日



↑ 体育館東玄関には、過去9回の輝城祭の写真が掲示してあります

人々が造り上げてきたものが失われた年でした。その時の生徒会は「自分たちができることはないのか」という思いを抱き、町の支援をいただいて生徒会役員が東北地方の被災地を訪問して瓦礫の処理などのボランティアに参加したのです。東日本大震災によって、それまで当たり前だったことが、当たり前ではないことに気付いた年であったと思います。そして第10回を迎える今年。新型コロナウイルスというかつてない禍に見舞われ、再び当たり前だったことが、当たり前ではなくなった今年でした。「輝城祭はできるのか」「どんな形なら開催できるのか」生徒会事務局の生徒たちを中心に、様々なケースを考えて「この場合はこうする」という様々な案を練ってきました。教職員も同じです。生徒会顧問、3年部の教員を中心に、どうしたら開催できるかを模索

「生きる～今私たちにできること～」 「Share～感動をみんなに～」 「無限大～可能性を信じて～」 「心って？」 「挑戦」「NEXT」「探究」「輪～支え合い、伝え合い、高め合い～」 「つなぐ」これは第1回輝城祭から第9回までのテーマです。第1回輝城祭が開かれた2011年(平成23年)は日本にとって、特別な年でした。その年の3月11日に東日本大震災が起り、我が国は戦後最大の自然災害に見舞われ、東北地方を中心に多くの尊い命と



してきました。1. 5日を1日にして、取り組み時間も3分の2に。全校合唱は行わない。体育館の窓やドアは閉めずに換気を行う。全校制作、学年展示、縦割り競技は中止する。そして、参観者は各家庭1名に限定し入れ替え制に。しかし、発表の場がすべてなくなった吹奏楽部や美術文芸部の3年生には、最後の発表の場をつくってやりたい。日程がすべて完成したのは、2学期になってからでした。毎年体育部門で最も盛り上がるムカデ競走も、コロナ対策のため途中で種目変更をしてもらいました。「なんで私たちの年に限って」と思った3年生もいたと思います。しかし、3年生のリーダーたちからは、「輝城祭が開催できることに感謝しよう」「こうしたときだからこそできる輝城祭を創り上げよう」という声をたびたび耳にしました。厳しい現実と直面して、不満を述べて何もしないのではなく、この状況の中でできることは何かを探り、できることを精一

杯やろうとする3年生を中心とする本校の生徒たちをととても誇らしく思います。第10回のテーマ「だからこそ」は、まさにそうした生徒たちの思いがこもったテーマなのです。輝城祭まで残り3日になりました。中学校生活最後の自分たちだけにしかできない輝城祭を創り上げようとする3年生の思いに、1年生・2年生も心一つにして現在取り組んでいます。参観できるのは各家庭お一人のみで、入れ替え制の輝城祭ですが、ご都合の許す方は是非ご来場いただき、生徒たちのあふれる思いとエネルギーを感じてください。

※学校では、ご都合で参観できなかつたり、他の学年の発表や体育部門も見なかつたりするご家族のために、映像を記録したDVDの貸し出しや google ドライブへの動画のアップを検討しています。

連携型中高一貫教育校としての取り組み

本校は、身延高等学校、身延中学校とともに公立学校として県内初の「連携型中高一貫教育校」に指定されています。高校の先生が中学校の授業をサポートしてくれる「アシスト授業」については以前に紹介しましたが、今回は「逆アシスト授業」と「身延高校演劇部による演劇指導」を紹介します。

逆アシスト授業

本校と身延中の数学と英語の教員が身延高校の1年生の授業に出向き、授業をサポートするものです。本校からは英語科の飯島健太教諭と数学科の深澤良人教諭が高校1年生のサポートに入っています。高1ギャップの解消と中高連携による学力向上を目的にしています。



高校の専門家による演劇指導

身延高校演劇部顧問の鈴木裕司先生は、県内の高校演劇部組織の事務局長を務めておられる先生で、身延校演劇部は県内では有名な部です。感染症予防のために高校生には来ていただけませんでしたが、2日間に渡り、鈴木先生から学年ごとに指導をしていただきました。



南部エリア防災会

本校は、「地域とともにある学校」としてコミュニティ・スクールの取り組みに力を入れています。しかし今年度は、新型コロナウイルスのために地域との連携事業の多くを中止にせざるをえませんでした。8月24日の始業式の午後、「南部エリア防災会」の防災訓練を実施しました。学校で地震想定避難訓練を実施したあと、南部・中



野・大塩地区の区長さんに集まっていただき、本校敷地内にある防災倉庫の防災備品を確認していただきました。その後、本校3年生とともに防災倉庫の中にある「緊急用浄水装置」「発電機及びバルーン投光器」「トリアージタグ」の使い方を、実際に体験しながら学習しました。災害時、本校に避難してこられる区民の代表者に、保管してある防災備品にはどのようなものがあるのかを知ってもらうとともに、災害発生時に中学3年生が地域の力として行動できるようにすることを目的とした訓練でした。

